

背景

【美唄市の概要】

○耕地面積9,410ha、水稲（子実用）は2,910haで3割を占める

○農家戸数の減少や担い手農家の高齢化とともに、1戸当たりの経営面積が拡大している

○農業生産基盤整備事業による、ほ場の大区画化などの整備が進められている

【地域の課題】

○実需者ニーズに対応した農産物の安定的な生産体制づくり

○農業生産基盤整備事業の推進、スマート農業の推進による生産性の向上

○基盤整備の事業効果を最大限に活用できるスマート農業技術の現場実装の加速化

普及活動内容

○農業者、市役所、関係団体で構成される美唄市ICT農業推進協議会と連携

○基盤整備後の大区画水田における水管理システム（水田センサー、自動給水装置）の精度および省力効果を検証し、その実用性を実証

○技術の概要や省力効果などを研修会等で農業者へ解説



水位等を計測する水田センサー



自動給水装置 (paditich)



地下かんがいの水位調整と両立可

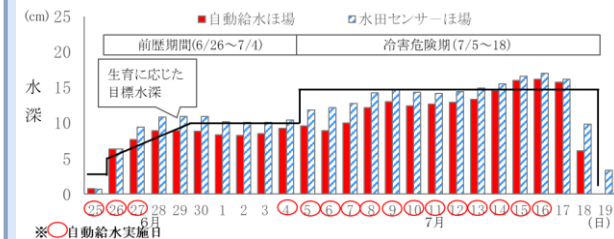


多くの農業者が集まった研修会

普及の成果

【具体的な成果】

○水田センサーと自動給水装置を組み合わせることで、生育に応じた目標水深に近い水位管理が可能であることを実証



○7月の水管理に要する作業時間は、4時間/haの削減が可能

【成果のポイント】

○美唄市ICT農業推進協議会が中心となって農業者のニーズと民間事業者の商品開発をマッチング

○詳細なデータに基づく技術実証

現場実装の加速化に向けて経営合理性が担保できる技術導入体系を構築中